

## 第3回 京都府プレコンセプションケア推進事業 運営委員会 議事概要

### 1 協議・報告事項

- ①学校現場の先生が指導できるプレコンに必要な知識がしっかりと盛り込まれているか
- ②生徒たちに授業の中で実施するグループワーク「考えてみよう」の分量や内容・質についてはどうか
  - (1) 議題1 第1領域
  - (2) 議題2 第2領域
  - (3) 議題3 第3領域

### 2 概要

- ① 高校生プログラム経過 報告
  - ・資料1 事務局説明資料
- ② モデル授業 実施概要
- ③ 最終成果物
  - ・資料2 高校生授業用スライド
  - ・資料3 動画シナリオ（概要版）
  - ・資料4 学習指導案
  - ・資料5 教員用プログラム
  - ・資料6 【参考】教員用プログラム付録資料（学習指導要領対応表）
- ④ 協議・報告事項
  - 第1領域
  - 第2領域
  - 第3領域
    - ・資料2 高校生授業用スライド
    - ・資料7 【協議事項抜粋】高校生授業用スライド

### 3 主な質疑応答及び意見交換

#### 【議題1 第1領域】

- モデル授業実施者からの報告（授業実施の感想・手応え等）
- 模擬授業や実際の授業を見てもらうことが、現場の先生にとって1番わかりやすい。先生自身からもとても学びになった、わかりやすかったというお声をいただいた。こういったことを広めていくことも大切。

## ■第1領域に関する議論検討

### ●プログラム1-1のアンケートを伴うワークについて

- 「プレコンアンケート」については、【1-1】ということで、できるだけ生徒を巻き込むような授業にするのが良いのではないかと思う。アンケートをもとに、生徒同士で意見交換を行うことで、他の生徒はどう考えるかを学ぶことにも大きな意味があると思う。
- アンケートの答えを来週にする等この答えを後回しにすると、不安なまま、間違った認識のまま進んでしまう懸念があるため、その場で回答が確認できる工夫が必要。
- 性的少数者の生きづらさの解消、理解促進を広めていく必要がある。「性の多様性と人権」パンフレットも活用いただき、プログラム作成を進めていただきたい。

## 【議題2 第2領域「心とからだの健康を保つ」の教育プログラムの内容検討】

### ■モデル授業実施者からの報告（授業実施の感想・手応え等）

- 「考えてみよう」は、こちらが上手に誘導したため大変盛り上がったが、ワークが抽象的なため、現場の先生はやりづらいではと感じた。

### ■スライドの修正箇所について

- からだの尊厳の自己決定と性的同意という内容からよりも、身近なデートDVから性的同意の順番に変更し、札幌市の啓発動画を入れて生徒たちに考えてもらうというような流れがよい。また、32ページから33ページのところが授業でやりづらかった。具体例を出さないと難しくてやりづらいと思ったので、「そういう場合はあなたならどうする。」というようなアクションに繋がるような検討が必要。
- デートDVに関する冊子『ずっと「シアワセ」でいるために』も活用いただくところであるが、デートDVは、身体的暴力だけでなく、社会的、心理的など様々であることを紹介し、その中で性暴力もあるという流れにしてはどうか。
- デートDV「暴力定規」を見てどのようなこと考えるのかというようなワークも入れていいのではないか。

- 32 ページのからだの尊厳部分「全ての人は自分の体を自分のものとして行動することができます。」は抽象的である。国際セクシュアリティ教育ガイダンスは、「自分のからだを誰がどのようにいつ触るかというのは、自分だけが決定できる」というように具体的に書かれている。「自分が決定権を持っていて、誰が、いつどこで、どう触るかを定めることができる、それがからだの権利である」という方がメッセージとしてはわかりやすい。

#### ■ 【2-2】 出産する・しないの意思決定を考えるスライドについて

- この単元は、避妊からすぐ人工妊娠中絶の内容になってしまっている。「妊娠が分かったら」のスライドのあとに、まずは出産するのかわしないのかという選択肢を図表で表した方がわかりやすいのではないかと。
- 里親制度は、家庭養育が原則であることを踏まえ、家庭的環境を整えた上でその家庭に戻すということが基本的な考え方であることから、資料中「妊娠が分かったら」において記載されている「自分で育てない」のではなく、「自分で育てる」の中に記載すべき。なお、自分で育てられない場合の選択肢として行政のサポートがあり、里親制度、ファミリーホーム、児童養護施設、乳児院等の各制度が創設されていることを踏まえ、「行政のサポート」の区分の中に整理した方がよいのではないかと。
- 50 ページの「考えてみよう」は、「こういったケースがあった場合、どんなアドバイスが考えられますか。」や「どんな意見がありますか。」というような、第三者目線のような形の方がよいのではないかと。

#### 【議題3 第3領域「これからの自分を考える」の教育プログラムの内容検討】

##### ■ 第3領域に関する議論検討

- 卵子の老化は伝えたい。女性の卵子は、胎児期の中に造られ出生後に新たに造られることはないため、数は減る一方であることは意外と知られていない。また、数が減るだけでなく質も悪くなる。インパクトがあるような記載も加えられたら、より伝わるのではないかと。その結果、95 ページ右下のグラフのように、年齢とともに妊娠率も下がり、妊娠しても流産率が上がるということに繋がればわかりやすい。男性も精子の質は落ちていくということが知られている。加齢とともにではなく、より具体的な表現とする方が伝わるのではないかと。

- このプログラムには、科学的、医学的な視点で発展的な内容が盛り込まれている。ここに書かれていること全てを教員が理解した上で、生徒に伝えることは難しく、これまで専門家の外部講師を活用していた利点はそこにあると考える。その意味では、動画で医師から説明があることは、授業の補完的な意味合いや教員が学びを深めるという意味では有効に活用ができるのではないかと考える。

その上で、このプログラムは、例えば、月経困難症や外性器の心配事など性機能の成熟の学びの場面において、自分のからだと向き合い、悩んだ時のために、科学的な説明が付け加えであったり、医療や社会的窓口につなぐといったことまで盛り込まれている。また、思春期の会話で話題になる性に関する情報をロールプレイで対話するという内容は、他人事を想定しつつも結果として自分事として捉えられる工夫もされているので、生徒たちは、これまで恥ずかしいと思っていたような性に関する内容も肯定的に捉えていけるのではないかと思う。

学校現場で先生が教えるよりどころは、学習指導要領、教科指導であれば検定教科書が基本になる。つまり、学校でこのプログラムが活用されるためには、学習指導要領に基づいているということは大前提である。検定教科書を補完できるようなプログラムにもなっていることが望ましい。

また、性に関する指導については、①発達段階を踏まえる。②学校全体で共通理解を図る。③保護者の理解や集団と個別の指導の連携を取ることをもっての指導は必須である。これらに従い、学習指導要領に沿って、そして科学的、医学的な視点を盛り込んでいる、正しい知識が学べる、そういった内容になっていければ学校現場で有効に活用されるのではないかと期待したい。

スライド、ワーク、動画が切り取り等できるような形で、先生方に色々な場面で使っていただき、生徒の実態に応じて選べるような工夫もしてもらいたい。

- 性が固有の権利として保障されるという考え方については、多様な意見があると考えており、学校教育の中では、慎重に取り扱う必要がある。
- 私立の学校では、それぞれの学校が独自の理念を基に教育をされている。各学校がこのプログラムをどのように活用していくかということについても各学校の判断ということになる。冒頭の動画でもあったように、私立の学校でもモデル事業を実施し、今後も予定されているようである。その結果も参考にした上でよりよいものにしていただきたい。

- 保健師は、妊娠した時に母子手帳の発行で役場に行って、その後赤ちゃん健診をしてという風に、健診への関わりのイメージが強いかと思うが、健康な赤ちゃんがしっかり産み育てられ、育っていく環境を整えるっていうことも大きな保健師の役割である。市の保健師が中学校へ命の教育として出前授業に行ったり、保健所でも性感染症予防やがん教育について、性感染症を切り口として健康教育を学校と一緒にしてきた。このプログラムが出来上がり、今までと同様に、地域の方では、学校と行政の保健分野、医療機関、助産師とが協力し、若い世代がしっかり正しい知識を持って、将来を見据えて育っていくための環境を作るこのプログラムは重要。